



美しい環境の中で育つもの

朝の出勤途中、ジーンズをはいた50歳代くらいの女性がポリ袋を片手に持って、道路わきのゴミを拾っておられる姿を見ました。前日も、緑のウィンドブレーカー（子ども見守り隊のユニフォーム）を着た女性がゴミを拾いながら歩いておられる姿を見ました。2人の女性の清掃活動しておられる姿を見てうれしくなりました。



道路に、たばこの吸い殻やペットボトル、空き缶等が落ちているのを見ることがあります。また最近、使用済みのマスクが道路に落ちていて、嫌な思いをすることもあります。しかし、このようにゴミを拾っておられる心ある方もいらっしゃるからでしょう、まだまだ私の住んでいる地域は、きれいに保たれています。本当にありがたいことです。

アメリカ大リーグで大活躍している大谷選手がグラウンドに落ちているゴミ拾いをする姿が称賛されたことがあります。大谷選手は、高校時代の監督から「ゴミ拾いは、運を拾うことと同じ」という教えを受けて実行しているのだそうです。大谷選手の大活躍の秘訣は、このゴミ拾いにあるのではと思わされます。

日本の学校では、子どもたちが教室や廊下、トイレなど、自分たちが使用した場所の掃除をします。この学校で行う清掃活動は、学校教育の中でとても大切にされている取組です。大谷選手のゴミ拾いと学校の清掃活動の取組は、自分たちが生活する環境をきれいに保とうという意識からきているものなのでしょう。この環境をきれいなものにしようという意識は日本人の一つの美德なのだと思います。

ある中学校で、「一輪挿し運動」を展開したことがあります。地域の方々の協力を得ながら、毎週月曜日と木曜日の早朝にトイレや手洗い場に一輪の花を飾ってもらうという取組です。その効果でしょう、子どもたちがトイレや手洗い場をきれいに使うようになり、トイレ内のスリッパもきちんとそろうようになりました。また、それ以上に子どもたちの心が落ち着き、学習にも部活にも真剣に取り組む子どもたちが増えるという成果もありました。まさに、「花一輪のパワー」でした。

防府市内の学校でも、地域の方々の協力を得ながら、教室に花を活けたり、トイレや手洗い場に一輪挿しを置いたりして、「花一輪のパワー」を活用しておられる学校もあると聞いています。子どもたちを美しい環境の中で育てたいものですね。

今は、外国から多くの人が日本を観光で訪れています。日本の文化が好きだからとか、豊かな自然に触れたいからとか、様々な理由で訪れておられるようです。日本を訪れた外国の人がよく、「日本は街がきれい、街の中のトイレがきれいだ」と言われています。このことは、日本の誇りです。日本を訪れる外国の方々を気持ちよく迎え、気持ちよく送ってもらうことで日本のことをもっと好きになってもらい、何度も来日してもらうようになればいいですね。

美しい環境の中で育つもの、それは「心に咲いた花」と言えるのではないのでしょうか。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村